

(様式3) 【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	津和野町村立青原小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5・6年生	総合的な 学習の時間	みんなに優しいまちづくり 地域のためにできること	地域住民・石見神楽・祭り・偉人
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域について自分事として考えることで、ふるさと青原への貢献意欲を高める ・多様な人との対話を通し、これからの生き方について見通しをもつ 	
1 取組の概要			
<p>年間を通してまちづくり学習を行った。地域の過去と現在を比較し、魅力と課題を知ったうえで、地域のために自分たちにできることを考え、行動・実践する活動を行った。主な実践としては、公民館や青原町づくり委員会、地域の方々に協力いただき、児童の提案で子ども商店を開いたり石見神楽を披露したりして地域興しを行った。その後、「人生を語る会」として、身近な大人や地域の方の人生を語る会を行い、これからの自分について考える機会を設けた。</p>			
4月	○1年間何を学びたいか児童自身が考える。		
5月	○地域の過去と現在を比較し、魅力と課題を知る。 ○地域のために自分たちができること、したいことを考える。		
6月 7月	○実践①子ども商店の準備、開店、振り返り ○実践②神楽の練習開始（2月まで毎月1回程度講師の方に教えていただく）		
9月 10月 11月	○子ども商店の後の振り返りをもとに今後の活動の方向性を学級全体で共有 ○実践③みんなの心の収穫祭の準備・本番 ・学習したことを劇で保護者さんや地域の方に発表 ・公民館祭りでのバザーのお手伝い ○実践④青原の魅力伝えるパンフレット作り ・青原の偉人や自然、文化について地域の方に情報収集 ・完成したパンフレットは萩・石見空港に持っていき置かせていただいた。		
12月 1月	○実践②神楽の練習が本格化 ○実践⑤2月の「議員さんとの学習会」に向けて発表の準備		
2月	○実践⑤「議員さんとの学習会」で今年度の学習を報告、発表 ・感想やご意見をいただき、今年度の学習の振り返りに活かす。 ○実践②神楽を保護者さんや地域に向けて発表、振り返り ○実践⑥人生を語る会 ・地域に住むこれからの自分を見つめる		
3月	○1年の振り返り ○これからの自分についてまとめる		

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・地域の過去と現在を比較する学習では、現在に近づくにつれて人口やお店が減っていることに気がつき、これからの青原はどうなっていくのかという危機感や自分たちにも何かできないかという貢献意欲を持つことができるように、年代を分けて地域の方に会う場を設定した。80代、60代、30代の地域の方に来ていただき、青原地域の地図に年代ごとに色分けをして店の名前を貼っていく活動を行ったことで視覚的にも分かりやすかった。



※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。

- ・住民が主体となって青原の地域課題解決のために設置された組織である「青原まちづくり委員会」との対話の場を設定し、大人も試行錯誤しながらまち全体で協力してまちづくりを行っていることを知ることで、ふるさとへの愛着や誇りを更に強く持つことができるようにした。
- ・現在の自分たち、これからの自分たちが地域のために何かしたいと考えたときに「公民館に行くと相談できる」という経験を積み重ねるため、そして、今年度も様々な地域の方との交流がしたいと考え、公民館に協力をお願いした。
- ・児童が自分たちも地域のために何かできたという達成感を得ることができるように、子ども商店での利益は「青原未来基金」という地域で貯めておられる基金の一部にした。
- ・地域の伝統文化に熱い思いをもって生活しておられ、更にその思いを児童に伝えてくださる大人（児童にとってのロールモデル）との出会いを目指して、神楽の講師さんと年間を通して関わる機会を設けた。



(学力育成の視点から)

- ・PPDACサイクルを意識して学びを深めていくことができるように、公民館と活動の相談や振り返りの場を設定した。1年間の学習の中でPPDACサイクルを何度も回しながら、学習を自ら深めていく姿があった。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・地域の過去と現在を比較し、魅力と課題を明確にすることで生まれた危機感や貢献意欲が年間を通しての活動の原動力となった。
- ・大人も試行錯誤しながら町づくりを行ってきたこと、地域の伝統文化を何百年と地域みんなで守ってきたことに気がついた。更に、自分たちもその伝統文化を受け継いでいきたいという思いを持った。
- ・多様な人との対話を通し、これからの自身の生き方について見つめ、考える事ができた。
- ・地域の方との対話を通し、地域の方が地域を大切にしている気持ちを感じ、地域への想いを更に深めることができた。

(学力育成の視点から)

- ・地域の方や資料から情報収集を行い、パンフレットや発表資料（スライドショー）にまとめる活動を通して、情報を選択したり集約したりする力が身についた。

4 課題や今後の展望

- ・児童の実践を通して地域の方々にとって変化があったのか、それぞれ実践の前後にアンケートを実施すると良かったのではないかと思った。児童にとって地域の方の気持ちの変容が分かりやすく、自分たちが行った活動がどう生きたかが更に明確になったのではないかと思う。
- ・学校からのお願いで地域の方が協力していただくことが多かったので、公民館と連携を図って、地域からの依頼で児童が協力する実践も行ってみたい。双方向の協力体制ができるのではないかと考える。

※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。